



# 東京歯科大学広報

## 第45回東歯祭 (フェスティバル2013) 開催



2013年10・11月

263号

本号の主な内容

- ・第45回東歯祭 (フェスティバル2013) 開催 ..... 1
- ・研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会開催 ..... 7
- ・医学教育等関係業務功労者表彰受賞、瑞宝単光章受章 ..... 14
- ・平成25年度科学研究費補助金決定 ..... 19

今年度の東歯祭は、9月に水道橋キャンパスへ移転した直後で準備期間が不十分ということもあり、中止とすることも見据えていたが、開催を切望する学生達の思いが通じ、平成25年10月26日(土)に、例年より規模を縮小してフェスティバルの形で開催された。

催物は真新しい水道橋校舎新館、血脇記念ホールにおいてMLS部、管弦楽部、Big Band Jazz部、ダンス部のライブ並びに演劇部による公演が実演され、観客を魅了した。

また、展示部門は同館7階において美術部、写真部、コンピュータ部、国際医療研究会、歯科学学生交流会から「延世大学校歯科大学との学生交流」が展示し、活動実績や日頃の成果を発表した。準



韓国の民族衣装のチマチョゴリを着て説明する歯科学学生交流会の展示：平成25年10月26日(土)、水道橋校舎新館7階

#### ■第45回東歯祭後夜祭・第45回歯学体成績報告会開催

第45回東歯祭後夜祭は、水道橋キャンパスへの移転のため開催を延期していた第45回歯学体成績報告会と併催する形で、平成25年10月26日(土)午後7時15分より水道橋校舎本館14階にお



各クラブからの歯学体成績報告：平成25年10月26日(土)、水道橋校舎本館14階

備不足のため各講座、研究室等への展示出展がお願い出来なかったが、特別参加で生理学講座がご協力してくださり出展いただいた。



国際医療研究会の展示：平成25年10月26日(土)、水道橋校舎新館7階



ダンス部のライブ：平成25年10月26日(土)、水道橋校舎新館血脇記念ホール

いて開催された。

文化部系、運動部系すべての部が一堂に参加した祝宴は例年とは違う形で盛り上がり、歯学体で好成績を上げたクラブに学長賞、父兄会長賞、同窓会長賞が授与された。

また、東歯祭に協力したクラブ・部にも参加賞



歯学体総合第3位の成績を報告する歯学体評議員の石彩記子さん(4年)：平成25年10月26日(土)、水道橋校舎本館14階

が授与され、盛会裏に祝宴を閉じた。



井出吉信学長（右）から金一封を受け取る学生：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階



寺本信三父兄会会長（右）から金一封を受け取る学生：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階



東歯祭後夜祭・歯学体成績報告会での記念写真：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階



東歯祭後夜祭・歯学体成績報告会での記念写真：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階



東歯祭後夜祭・歯学体成績報告会での記念写真：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階



東歯祭後夜祭・歯学体成績報告会での記念写真：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階



東歯祭後夜祭・歯学体成績報告会での記念写真：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階



東歯祭実行委員で記念写真：平成25年10月26日（土）、水道橋校舎本館14階

**■准教授就任のご挨拶****市川総合病院麻酔科**

大内 貴志

平成25年11月1日付けで麻酔科准教授を拝命いたしました。これもひとえに手術室に関わる診療科の諸先生方や、手術室スタッフの皆様、市川総合病院の皆様のお力添えによるところが大きく、この点を大学執行部の諸先生方にご評価いただけた結果と考えております。この紙面をお借りして感謝の気持ちを表させていただきます。

ここで麻酔科准教授としての抱負を述べさせていただきます。まず教育面では、これまで携わってきた初期臨床研修医、麻酔科後期研修医、歯科医師の麻酔科研修の教育に加え、臨床研修歯科医

や歯科学学生教育にもより深くかかわってゆきたいと考えております。次に診療面では、これまで同様、安全な麻酔管理と安全な手術室運営を両立させてゆきたいと考えております。また、このたびの大学の水道橋移転に伴い、水道橋病院、千葉病院、市川総合病院の3病院の役割に変化が出てくることが予想されます。その変化に柔軟に対応できるように、市川総合病院麻酔科と手術室の一翼を担いたいと考えております。最後に研究面ですが、これまで市川総合病院で周術期の体温管理の臨床研究を重ねて参りましたが、これを途絶えさせることなく継続し、成果の発信を行いたいと考えております。併せて、若手麻酔科医と歯科麻酔科医を研究面からも指導やサポートにも力を入れてゆきたいと考えております。

このように、これまで以上に教育、診療、研究に力を注いでいく所存です。ご指導ご鞭撻賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

**学内ニュース****■第126回歯科医学教育セミナー開催**

平成25年10月4日(金)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第126回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「アメリカの歯科医学教育」と題し、Unit Chief of Oral Medicine School of Dental Medicine East Carolina Universityの池田健太郎先生より説明がなされた。

まずはじめに、アメリカには65歯科大学があり、大都市に集中していて、全ての大学はADA(アメリカ歯科医師会)から派遣された調査委員会より教育水準を試験され、認定を受けていると説明があった。

つぎに、アメリカで歯科医学を学ぶには、学士課程を修了し、DAT(Dental Admission Test)に合格した者のみが歯学部に進学することになっていると説明があった。教育課程は4年間で構成されており、1年半～2年間は基礎系科目と臨床系科目の座学と実習、その後の2年～2年半は臨床実習が中心ということであった。入学してくる学生は志が非常に高く、日本と比較すると学生の質問レベルが高いため、エビデンス重視の授業が

多いとのことであった。臨床前実習は基本的にマネキン実習で、設備や装置については日本と似ているとのことである。また、学生が実習に臨む際の身なりや服装については、自分自身で厳しく取り組んでいると説明があった。

臨床実習は基本的に学生診療が成り立っており、慣れるまでは一つの処置が終了し、次の処置に入る前に必ず教員のアドバイスを受け、ディスカッションを行いながら実施されていると説明があった。この背景としては、アメリカは自由診療であり、学生診療の方が値段を安く設定されていて、教員の管理のもと行われているので患者も安心して受診しているとのことであった。なお、学生が医療事故を起こした際は、教員の免許剥奪に関わってくるので、教える側も必死に勉強し指導にあたっているとのことであった。また、学生が卒業までに診療を行う患者数は延べ人数で約700人であると説明があった。

そして、卒業後に自分が働く州政府の歯科医師免許試験を受験し、合格した者のみが歯科医師になることができるとのことである。なお、歯科医

師免許試験の臨床実地では課題の条件に合った患者を自分で探す必要があるので、学生のうちに相当数の経験を積んで患者との信頼関係がないと試験に受からないと説明があった。

当日はテレビ会議システムで市川総合病院と千葉校舎にも中継された。多くの参加者が集まり、参加者の中にはアメリカ留学経験者も多く、予定時間が大幅に超過するほど、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明される池田先生：平成25年10月4日（金）、水道橋校舎本館第2講義室

### ■第11、12回試験問題作成に関するワークショップ開催

平成25年10月5日（土）、6日（日）に午前9時より、水道橋校舎本館13階において、第11、12回試験問題作成に関するワークショップが開催された。

本ワークショップは、教員個々の問題作成・管理能力の向上を図り、ひいては、本学における学生の公正な学習評価のより一層の充実を目指し、定期的に実施している。

今回は、歯科医学における基本的な知識の理解と総合的な診断能力・問題解決力を総括的に評価するための多肢選択式試験問題作成のスキルアップを目的としたものである。

はじめに、多肢選択式問題作成法の解説と題し、河田英司教務部長より基本的な作成方法と注意点等について説明を受けた。つぎに、参加者それぞれが事前に作成した問題に対して、4グループに分かれて、ブラッシュアップを行った。さらに全体発表・討議で各グループのブラッシュアップした問題に関して発表をして意見を出し合った。

次のセッションでは、まず、参加者が事前に用意した視覚素材を使用し、個人で問題を作成する演習を行った。次にその問題についてグループで

ブラッシュアップを行い、最後に全体発表・討議ということで参加者全員がグループでブラッシュアップした問題について発表をして討議を行った。

10月5日（土）の第11回は参加者とスタッフを合わせ34名、6日（日）の第12回は36名が出席し、活発な討議が行われ、最後に、受講者全員に修了証書が授与され、午後7時20分に盛会の内に終了した。



グループでのブラッシュアップ風景：平成25年10月5日（土）、水道橋校舎本館13階



全体討議での質疑応答風景：平成25年10月6日（日）、水道橋校舎本館13階

### ■千葉病院医療コンシェルジュ開始

千葉病院では、平成25年10月15日(火)より、初めて来院される方やお困りの患者様へのサポートのために医療コンシェルジュを開始した。毎朝、8時30分から9時30分までの間、千葉病院1階窓口にて患者様に対応している。今後も、病院の玄関先で来院者を迎える、病院の顔として継続していく予定である。



コンシェルジュとして患者様を迎える立木千恵助教：  
平成25年10月31日(木)、千葉病院1階ロビー

### ■第296回東京歯科大学学会(総会)開催

平成25年10月19日(土)・20日(日)の両日に行われ、水道橋校舎新館で第296回東京歯科大学学会(総会)が開催された。

第1日目の学術発表は、8階と11階の大教室を会場として口演が、12階実習講義室を会場として示説発表がなされた。今回発表された口演は30題、示説は7題であった。午後には血協記念ホールを会場として今年度末に定年を迎えられる6名の教授のうち2名の教授による特別講演が行われた(下記1～2)。また、12階実習講義室では12商社の参加による商品展示が行われた。

第2日目は血協記念ホールを会場として、午前中は姉妹校交流招待講演が行われ、午後からは第1日目に引き続き、4名の教授による特別講演が行われた(下記3～6)。

1. 「歯科疾患の疾病構造の変化と口腔衛生」  
松久保 隆 教授(東京歯科大学衛生学講座)
2. 「リプロダクションセンターでの男性不妊診療ーとくに精液検査の意義について」  
石川博通 教授(東京歯科大学市川総合病院泌尿器科)
3. 「薬理学、NIH、唾液、口腔乾燥」  
川口 充 教授(東京歯科大学薬理学講座)

### 4. 「法歯学の鑑定と研究」

水口 清 教授(東京歯科大学法歯学講座)

### 5. 「中高年の性を考えるーいつまでも逞しい男性でいるために」

丸茂 健 教授(東京歯科大学市川総合病院泌尿器科)

### 6. 「チタンの歯科応用の最前線」

小田 豊 教授(東京歯科大学歯科理工学講座)

姉妹校交流招待講演と特別講演の間の時間帯に8階大教室で「平成25年度東京歯科大学学会評議員会ならびに総会」が開催された。この中で、東京歯科大学学会会則により内山健志名誉教授、柳澤孝彰名誉教授に名誉会員を委嘱したことが報告された。

また、12階実習講義室では前日に引き続き10商社の参加による商品展示が行われた。



平成25年度東京歯科大学学会評議員会・総会：平成25年10月20日(日)、水道橋校舎新館第2講義室

### ■千葉病院職員向け講演会(ランチョンセミナー)開催

平成25年10月25日(金)午後12時より、千葉校舎第2会議室において、ランチョンセミナーとして



講演風景：平成25年10月25日(金)、千葉校舎第2会議室

て、本学同窓の山口修一先生を講師に迎え、千葉病院職員を対象に、「アメリカにおける病院経営」と題した講演が行われた。アメリカの風土を織り交ぜ、歯科医院の器材や家具の購入方法から、CAD/CAMに至るまで、多岐にわたるお話をいただき、集まった24名の参加者は熱心に耳を傾けていた。

#### ■平成25年度第5回水道橋病院教職員研修会開催

平成25年10月29日(火)午後5時30分より、水道橋校舎本館第2講義室において、平成25年度第5回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「AEDの使用方法」と題して、歯科麻酔学講座の大串圭太助教が講演を行った。

本講演は、心肺蘇生法およびAEDの使用の際の重要なポイントを紹介した。

迅速なAEDと心肺蘇生法を行うことが心肺停止状態の患者の救命の鍵となるため、正しいAEDの使用方法や心肺蘇生法の重要性について解説した。現行のアメリカ心臓学会の2010年ガイドラインに則り、質の高い蘇生を行うためには圧迫の速さ、強さ、圧迫の度に胸壁を完全に戻す事が重要であると解説した。

さらにAED使用の際のポイントについて解説し、最後に水道橋病院内のAED設置場所をスライドで確認した。

研修会の後半は、実際に心肺蘇生法とAEDの使用を教職員が体験実習を行った。(株)フクダ電子のご協力により用意した練習用のマネキンとAEDを使用し、歯科麻酔科医局員のデモンストラーションや教職員が実際に心肺蘇生やAEDの使用を体験した。短い時間ではあったが、実際に体を動かす事により心肺蘇生法やAED使用の際



講演する大串助教：平成25年10月29日(火)、水道橋校舎本館第2講義室

のポイントや、騒然とした現場で周囲の人に声をかけ、指示する難しさを共有した。歯科医療現場でこのような事態に遭遇する事は非常に稀ではあるが、心肺停止状態となった傷病者を救うためには1秒でも早く行動を起こす事が最も重要である事を最後に説明し、研修会は終了した。

#### ■研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会開催

平成25年10月28日(月)に、「研究活動に係る不正行為の防止に関する研修会」が開催された。本研修会は、10月15日(火)の第638回全体教授会にて制定された「東京歯科大学における研究活動に係る不正行為の防止に関する規程」の内容を学内に広く周知するため、まず、水道橋校舎と千葉校舎に所属する専任教員、リサーチレジデント、レジデント、ポストドクトラル・フェロー、大学院生を対象に、水道橋校舎本館第1講義室で講義を行い、千葉校舎第2教室にはこの講義をテレビ会議システムで配信して実施した。

研修会は村松 敬研究部副部長の司会で午後6時から開会され、まず、一戸達也副学長より「研究活動に係る不正行為の防止に関する規程について」の講義が行われ、本学における「研究活動に係る不正防止」の体制について、また同時に制定、改正された「東京歯科大学における研究者の行動規範」、「東京歯科大学における公的研究費の管理・監査実施基準」の概要について説明を行った。続いて加藤靖明大学事務部長より、「公的研究費の適正使用について」と題し、本学での過去の事例を取り入れながら、研究費の適正使用に関する講義が行われた。次に石原和幸研究部長より、「研究倫理指針について」の講義があり、現在、わが国で定められている研究に関する倫理指針について説明があった。最後に、石井拓男副学長より、「倫理委員会と利益相反委員会について」と題し、本学倫理委員会、利益相反委員会に申請する際の申請書記載のポイントを交えた講義が行われた。

本講習会では、プレテスト・ポストテストが行われ、出席者は理解を深めた。当日は水道橋、千葉合わせて310名が出席し、有意義な研修会となった。また、今回制定された「東京歯科大学における研究活動に係る不正行為の防止に関する規程」では、研究の単位を大学と市川総合病院と規

定していることから、市川総合病院の関係者に対しては別途この研修会が開催される予定である。



研修会会場風景：平成25年10月28日（月）、水道橋校舎本館第1講義室



講義する一戸副学長：平成25年10月28日（月）、水道橋校舎本館第1講義室

### ■千葉病院図書コーナーオープン

平成25年11月1日（金）より、患者様が待ち時間を有効に利用し、通院がより楽しく、身近になるよう、教職員の寄贈を受け、千葉病院図書コーナーが設置された。その後、更なる本の寄贈があり、本棚を2台へと増設した。



千葉病院図書コーナー：平成25年11月1日（金）、千葉病院1階

### ■推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、編入学試験A、学士等特別選抜A実施

平成26年度推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜が平成25年11月9日（土）午前9時より、水道橋校舎本館、大阪のTKP新大阪ビジネスセンター、福岡のTKP博多駅前シティセンターの3会場において実施された。推薦入学選考（指定校制含む）、帰国子女・留学生特別選抜では80名の志願者が集まり、小論文、小テストからはじまり、最後に面接試験が行われた。また、編入学試験A、学士等特別選抜Aも同時刻に水道橋校舎本館で実施され、14名の志願者があり、小論文、小テストおよび面接試験が行われた。編入学試験Aの合格者は、来年度の第2学年に、学士等特別選抜Aは第1学年に入学する。なお、合格者には11月12日（火）に合格通知が発送された。

平成26年度一般入学試験（I期）・大学入試センター利用試験（I期）は、平成26年2月2日（日）に水道橋校舎本館および大阪（TKP新大阪ビジネスセンター）、福岡（TKP博多駅前シティセンター）の3会場において実施される。

### ■市川総合病院 市川市との合同医療救護活動訓練報告

地震などの大規模災害に備え、平成25年11月16日（土）午後2時より、市川総合病院において市川市との合同医療救護活動訓練を行った。

当院は千葉県の地域災害拠点病院に指定されており、災害時には多数の負傷者が押し寄せることが予測される。市川市は当院敷地内に医療救護所を設営する予定で、医師会から派遣された医師が負傷者の応急手当てと病院内への搬送の要否判断などを実施することになっている。

訓練は東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生、総武線沿線の市街地で震度6強の揺れに襲われて建物の倒壊などで多くの負傷者が出たとの想定で始まった。

当院の役割は、市川市及び市川市医師会と相互に連携を図り、速やかに医療救護活動を実施し、後方病院の機能を果たすというものである。当院が患者で溢れ、重傷者への対応など本来の役割が損なわれてしまう可能性があるため、市川市により当院正面に仮設救護所が設営され、市川市医師会の医師によるトリアージが実施されることと

なっている。軽微な負傷患者は仮設救護所で治療して帰宅させ、院内での治療が必要となる重症患者を判別して後方病院である当院へ搬送する。一方、当院側では仮設救護所から搬送されてくる重症患者を受け入れ、院内で二次トリアージを実施して重症患者の処置を行うという、それぞれの役割が予め決められている。訓練は、そうした役割分担を想定し行われた。

当日は天候にも恵まれ、市職員や市川市医師会・歯科医師会・薬剤師会・千葉県接骨師会市川浦安支部、当院教職員ら約200名が参加した。



一次トリアージ風景：平成25年11月16日（土）、市川総合病院前



救急車による搬送風景：平成25年11月16日（土）、市川総合病院外来1階待合いホール入口



院内における傷病者処置風景：平成25年11月16日（土）、市川総合病院外来1階待合いホール

昨年に引き続き、5回目の合同医療救護活動訓練としては、滞りなく進行し、人の動きや各種オーダーなどの流れを確認することができたが、今後の課題となる問題点も数多くあり、実際に災害が発生した際に受け入れ能力を超えた多数の被災者が来院した場合には、対応が不可能になるという現実も想像されることから、普段から地域住民に対しての啓蒙活動も重要であることが再認識された。災害時の基本的な考え方や、流れを理解する上でも災害に対する意識がより高まった訓練となった。

### ■第127回歯科医学教育セミナー開催

平成25年11月18日（月）午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において、第127回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「平成25年度 Elective Study 実施報告」と題し、3回目を迎えた“Elective Study”について、国際交流部長の阿部伸一教授、国際交流部委員であり教務副部長の山本 仁教授より報告が行われた。

はじめに、山本教授より Elective Study の経緯として、昨年までと本年との相違点について、学生教育の一環として開催されることから教務部が主催し、国際交流部(旧国際渉外部)が立案およびコーディネートすることになったことや第1～3学年は選考される学生数が昨年までの各学年2名から4名に増えたことなどについて説明があった。

引き続き、第1学年から第3学年を台湾に引率した山本教授により、スライドを用いて報告がなされた。参加学生は事前に数回ミーティングを行い、団長や副団長を選出し、訪問チームとしての一般目標や行動目標を立てるとともに、参加学生各自が Elective Study の目的を明確にしたほか、訪問先での理解を深めるために台湾の文化、風習などを調べたとの説明があった。台北医学大学や関連病院においては、主に大学や病院等の施設見学、講義やディスカッションを中心にプログラムが進められたが、それぞれの施設において Elective Study のために独自の講義や手術見学を含んだプログラムが組まれるなど、過去2回の Elective Study で築いてきた台北医学大学をはじめとする各病院との信頼関係が強く感じられたとの話があった。また、過去に Elective Study で本学学生と行動を共にした台北医学大学の学生が飛び入

りに参加するなど、見学だけでなく学生交流も積極的に行われたが、円滑な学生交流は受入先の学生の中心メンバーが昨年のプログラムにも参加していた学生であったことや、本年の Elective Study 参加者の中にも昨年の Elective Study に参加した学生がいたことが大きな要因と考えられた。帰国後に行ったアンケートでは参加学生は事前に立てた目標の多くを達成したことをうかがわせる感想が多く見られたとの報告があった。

つづいて、第4学年から第6学年をアメリカに引率した阿部教授より、現地での状況について、主に今年度から開設された国際交流部のホームページに掲載済みの写真を用いて (<http://www.tdc.ac.jp/college/introduction/international.html>) 報告がなされた。アメリカでの研修は、主にコロンビア大学で行われることが事前に提示され、対象学生から定員を超える募集があり、結果的に選考委員会で選考された学生6名(各学年2名)が参加となったとの事であった。次に出発前に参加学生のチームワークの構築のため、数回話し合いの場が設けられ、その中でリーダーを選出し、一般目標の設定、そして一般目標を達成するための行動目標の設定などが行われた経過が報告された。さらに研修先での学生について、コロンビア大学でのレクチャー、病院見学、学長との懇談の様子などが紹介され、参加学生が積極的に研修をこなしている旨の説明がなされた。その中で参加学生は、アメリカでは学生の段階で高レベルの診療を行っていること、24時間開放されているラボで、次の診療へ向けて真剣にマネキンを使用した手技の練習をしている様子などに感銘を受けたとの事であった。そして、学生の感想文、アンケート結果などが紹介され、参加学生は今回の研修を経験し多くのことを学んだだけでなく、今後の各自の目標設定に大きな夢を持てたのではないかと、との考察がなされた。

最後に、阿部教授より、今回の取り組みを検証し、更に発展させた Elective Study を計画したいため、多くのご意見、研修先候補となり得る情報をいただきたい旨、協力依頼があり、午後7時過ぎ盛会の内に終了した。

今回は台湾とアメリカ共に学生が事前に訪問先の学習やチームワークの形成を行っていたので、例年以上にスムーズに現地に溶け込めていたよう

に感じた。特に台湾は過去の積み重ねがあるので信頼関係が非常に強く充実しているように伺えた。アメリカも関係の先生方の事前準備により、現地で活躍されている日本人の方との対話の機会があるなど参加学生は貴重な経験をして来てくれたと思う。この経験を活かし、今後の歯科医学界を担っていく人材になってくれることを期待している。



説明する山本教授：平成25年11月18日(月)、水道橋校舎本館第2講義室

#### ■平成25年度第6回水道橋病院教職員研修会開催

平成25年11月25日(月)午後6時より、水道橋校舎本館第2講義室において平成25年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「輸血の適正使用、安全対策、輸血副作用」と題し、東京都立墨東病院輸血科の藤田 浩先生を講師としてお招きし、講演していただいた。

最初の適正使用については、「輸血とは世界で最も行われている臓器移植」で、宗教上の理由などにより輸血拒否する人もいることから、十分な説明と理解が必要であると訴えられた。そして使用にあたっては、血液法第8条にある医療関係者はその基本理念にのっとり、血液製剤の適正な使用が求められていることを強調された。そのためには適切な輸血量と輸血の適応、適切な輸血手順(事故防止と温度管理・授与ルート)、輸血効果の検証が必要である。次に安全対策・輸血実施ではまず、血液製剤の適切な温度管理について説明され、輸血実施では、輸血の速度について実例を交えて説明された。また輸血バックからわかる色調変化や、輸血ルートにおける注意点、輸血認証の重要性等について説明された。最後の副作用については、アナフィラキシーショック、輸血関連急性肺障害、感染性副作用について実例を交えて

説明された。

水道橋病院の通常業務において直接輸血に係る部署は一部に限られるが、医療機関に従事する教職員においては一般知識として知っておくべき内容であった。講演終了後も活発な質疑があり、大変有意義な研修会となった。



講演される藤田先生：平成25年11月25日（月）、水道橋校舎本館第2講義室

#### ■千葉病院若手医局員のためのプログラム開催

平成25年10月22日（火）より、11月14日（木）、11月19日（火）、11月26日（火）、11月28日（木）に、千葉病院若手医局員のためのプログラムが開催された。講師には飯島俊一臨床教授、椎貝達夫臨床教授、武田孝之臨床教授をお迎えし、研修歯科医を含む若手医局員を対象に、以下の内容で行われた。これからも、徐々にプログラムを構築し、引き続き開催していく予定である。

##### 1. 「本学臨床教授による講演会」

各個人の現状の立場、現在目標にしていること、目標に対してやるべきこと・・・など、羅針盤としての内容を何う講演会



熱心に講演を聞く参加者：平成25年10月22日（火）、千葉校舎第1教室

2. 「認定医・専門医を目指すための講習会」  
優秀な臨床医、認定医、専門医を目指すための講習会
3. 「千葉病院スタディグループによる症例検討会」  
自分たちで行った症例を見直し、問題点を整理し、経過を見直し、参考論文を読み、皆で評価していく症例検討会

#### ■平成25年度修学指導関係者・父兄個別面談会開催

平成25年11月30日（土）に、修学指導関係者・父兄個別面談会が第1・2・3・4学年は水道橋校舎本館13階、第5・6学年は千葉校舎で開催された。修学指導を必要とする学生を対象に、保護者及び学生と学年主任・副主任による3者面談方式で実施された。

昨年と本年は千葉と水道橋で行われたが、来年度からすべての学年が水道橋キャンパスで実施されることになる。

#### ■第4回千葉病院ロビーコンサート 午後のリサイタル開催

平成25年11月30日（土）午後2時より、千葉病院1階待合ロビーにて、第4回ロビーコンサートが開催された。

今回は「ちょっと早めのChristmasコンサート」と題し、本学管弦楽部により、クリスマスソングを始め、「となりのトトロ」、「アイネクライネナハトムジーク」等の様々な楽曲が演奏された。

当日は、97名の方々が集まり、盛大かつ和やかにコンサートは終了した。



管弦楽部によるコンサート風景：平成25年11月30日（土）、千葉病院1階待合ロビー

## 大学院ニュース

### ■第374回大学院セミナー開催

平成25年10月24日(木)午後5時40分より、水道橋校舎本館7階口腔科学研究センター・ミーティングルームにおいて第374回大学院セミナーが開催された。今回は、米国ワシントン州で開業されている山口修一先生を講師にお迎えし、「アメリカにおける歯科医療」と題した講演を伺った。

山口先生は、1978年東京歯科大学をご卒業後、故河辺清二先生に師事された。その後、アメリカの大学に編入学され、歯科医師の免許を取得後、41歳でワシントン州エベレット市にて開業されている。講演の中で、山口先生はアメリカと日本の歯科事情の違いについて、また、ご自身の診療室に設置されているCAD/CAM, CBCTによる臨床研究、Implant guided surgeryなどの理論背景を豊富なデータをもとに話された。大学院生が臨床医となるための必要な研究アドバイスなども頂戴した。今回は、大学院生のみならず、医局員も多く参加し、興味あるセミナーとなった。



講演される山口先生：平成25年10月24日(木)、水道橋校舎本館口腔科学研究センター・ミーティングルーム

### ■第375回大学院セミナー開催

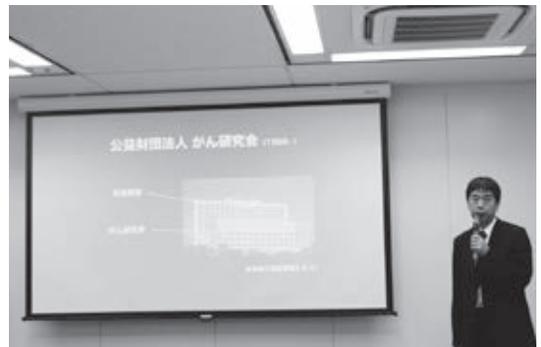
平成25年10月30日(水)午後5時40分より、水道橋校舎本館第2講義室において、第375回大学院セミナーが開催された。今回は、(公財)がん研究会・がん研究所・蛋白創製研究部の芝 清隆部長をお迎えし、「エクソソームによる新しい診断と治療」と題した講演を伺った。

芝先生からは、エクソソームとは細胞が放出する極めて小さな小胞で大きさはおよそ直径70nmから数百nmであること、エクソソームが内包す

る親細胞由来の核酸やタンパク質が、それを取り込んだ他の細胞の中で機能することが明らかとなり再注目を集めており、遺伝的には独立性の高い単位と考えられていた「細胞」がエクソソームを介して密接につながっていることが紹介された。

エクソソームは、血液、唾液、尿などのありとあらゆる体液に含まれており、例えば血液中には「がん部」(がん細胞や、それを取りまく微小環境を形成する正常細胞)から放出されるエクソソームが含まれていること、また、がんのスクリーニングや性質決定といった「診断」に利用する試みが精力的に進められていると述べられた。さらに、血液中から例えばがん細胞由来のエクソソームだけをうまく分画することができれば、それが内包する核酸やタンパク質の解析から、血液全体で平均化してしまった時には得られない情報量を引き出すことが可能になると解説された。エクソソーム医療は「診断」にとどまらず、「治療」にも活用でき、例えばがんの転移に関わるエクソソームの実体が明らかにされたならば、血液の中から転移を促進するエクソソームだけを除去するといった血液浄化療法が可能となること、また、免疫の誘導や抑制にエクソソームを用いようとする試みが行われているとも紹介された。

講演に対して、唾液からエクソソーム分画をハイスループットで精製してくる方法の確立、口腔がん細胞と正常口腔粘膜上皮細胞から精製したエクソソームの性質決定に関する質問があった。また臨床研究に関連して、全身疾患と関連したマーカーが唾液中に含まれるかの予備調査の必要性が述べられた。



講演される芝先生：平成25年10月30日(水)、水道橋校舎本館第2講義室

以上の講演から、唾液中「エクソソーム」により口腔内疾患・全身疾患診断の期待性が高まり、参

加者に感銘を与えること大であった。

## トピックス

### ■栗原絹枝大学院生 第58回日本口腔外科学会総会・学術大会で優秀ポスター発表賞を受賞

平成25年10月11日(金)から10月13日(日)に福岡国際会議場・マリンメッセ福岡(福岡市博多区)で開催された第58回日本口腔外科学会総会・学術大会で、オーラルメディスン・口腔外科学講座の栗原絹枝大学院生(がんプロフェSSIONAL基盤推進プラン4年次)が優秀ポスター発表賞を受賞した。本賞は、エントリー演題の中から事前に抄録を審査し、優秀ポスター発表賞ノミネート演題として採択された53演題の中から、さらに学術大会におけるポスター発表内容の優れたものに対して授与されるものである。栗原大学院生は「舌扁平上皮癌の発癌過程におけるBmi-1およびZEB1の発現」と題する発表を行い、選考の結果、今回の受賞となった。

研究は、上皮間葉移行(EMT)は上皮細胞を間葉化し浸潤や進展を生じさせる上皮系腫瘍の発癌過程において重要な現象で、治療の抵抗性を増やし癌の増大に関与すると考えられている癌幹様細胞との関連性が注目されている。本研究は幹細胞系マーカーのBmi-1とEMT誘導因子と考えられているZEB1を用いて舌扁平上皮癌の発癌過程におけるEMTとの関連性について検討したものである。研究内容は舌扁平上皮癌培養細胞を用いたin vivoにおける初期浸潤過程と舌組織検体を用いたin vitroにおける発癌過程でのタンパク質およびレーザーマイクロダイセクション定量的リア

ルタイムRT-PCR法を用いたmRNAレベルの発現量を検討した。その結果Bmi-1、ZEB1の発現量の増加が、舌扁平上皮癌の発癌過程における浸潤や進展を生じさせるEMTの誘発と癌幹様細胞の増加に関与していることが分かった。舌扁平上皮癌においてBmi-1、ZEB1をターゲットとした治療が新たな治療アプローチとして臨床応用を目指した今後の研究が期待される。

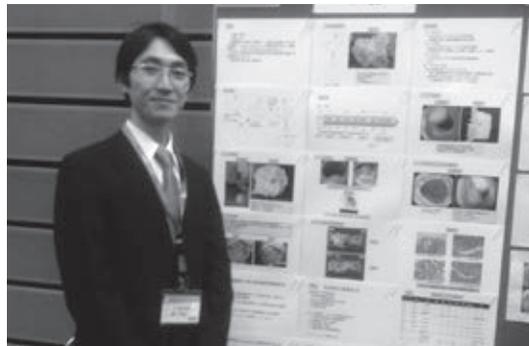
### ■横江隆道専修医 第75回日本臨床外科学会総会で企画セッションAwardを受賞

平成25年11月21日(木)から23日(土)までの3日間名古屋国際会議場で開催された第75回日本臨床外科学会総会において、市川総合病院外科の横江隆道専修医が、企画セッション「忘れられないこの一例」でAwardを受賞した。受賞演題は、「胃癌に対し胃全摘術後、縫合部及びその近傍に4回の局所再発を認め、手術およびESDを施行した1例」である。

症例は70歳男性、胃癌術後に4回の再発を繰り返し、いずれの再発も微小癌細胞が直接粘膜や吻合部に付着し発育する「Implantation」が原因と考えられた、珍しい症例である。全ての再発時に手術および内視鏡的治療にて切除を行ったが、手術切除後の病理組織で断端陰性であり、全ての組織型が類似し、遠隔転移や腹膜播種が無いことから、直接浸潤や転移による再発ではなく、Implantationによる再発であると診断された。



受賞した栗原大学院生：平成25年10月13日(日)、福岡国際会議場・マリンメッセ福岡、受賞ポスター前



受賞した横江専修医：平成25年11月23日(土)、名古屋国際会議場、受賞ポスター前

今回、外科学講座松井淳一教授を始め、佐藤道夫准教授の指導のもと、21日の企画セッションにおいてポスター発表を行い、22日夜に開催された懇親会にて表彰された。これまで胃癌術後Implantationによる再発の報告は世界でも非常に少なく、今後論文報告を予定している。

### ■平成25年度医学教育等関係業務功労者表彰(文部科学省)を受ける

市川総合病院 山本逸雄 主任薬剤師

市川総合病院 宇山恭市 調理師長

歯学部・医学部及び附属病院等において、教育・研究・患者診療等に長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される当該表彰において、本学から推薦された市川総合病院の山本逸雄主任薬剤師並びに宇山恭市調理師長が、全国の大学より推薦された候補者の中から、今年度の受賞者として選ばれた。

山本氏は、昭和52年に入職し、約36年にわたり調剤業務から薬品管理まで幅広く薬剤師業務に従事してきた。主任として、総合的に薬局内の状況を把握し、即時に的確な決断をして指示を出す能力に優れ、業務の改善・効率化のため、薬袋印字システム、注射薬自動払い出し装置の導入、病

棟定期薬の実現を積極的に進める等、病院に多大なる貢献をしている。

宇山氏は、昭和46年に入職し、約42年にわたり調理師の立場から病院の医療に貢献した。不規則な勤務形態にもかかわらず、積極的に業務に従事し、温厚な人柄と真面目な性格で、若いスタッフからも慕われ、周囲の人望が厚く、調理師長として長年病院の調理場をまとめている。

それぞれの立場において、他の職員の模範となり、病院の発展に貢献してきたことが高く評価され、今回の表彰となったものである。

### ■鈴木福代元水道橋病院看護師長 瑞宝単光章受章

本学水道橋病院元看護師長鈴木福代氏が、平成25年秋の叙勲で瑞宝単光章を受章された。

鈴木氏は、昭和47年より看護職として経歴を重ね、昭和55年より本学市川総合病院に勤務し、平成16年に看護師長に昇任、同年10月に水道橋病院の看護師長に配置替えとなり、平成24年に定年退職となるまで、長きにわたり看護業務に精励するとともに、人材の育成ならびに看護の質向上に貢献された。

長年にわたるこれらの功績が評価され、今回の受章となった。



表彰を受けた山本氏：平成25年11月21日（木）



表彰を受けた宇山氏：平成25年11月21日（木）

## 長期海外出張報告

### ■口腔外科学講座 講師 薬師寺 孝

この度、平成25年6月より11月までの半年間(180日間)長期出張をさせていただきましたので、その報告をさせていただきます。

私は中華人民共和国の首都北京市にある北京大学口腔医院(Peking University Hospital of Stomatology)に出張いたしました。同院は平成21年8月に本学との姉妹校提携をしております。姉妹校提携以前からも当教室とは交流があり、当教室からは山本信治講師(平成21年)、濫井武夫講師(現オールメディシン・口腔外科学講座、平成23年～平成24年)がそれぞれ3か月、1年の期間で同院に出張しております。また、同院からは崔念暉副教授(平成15年、平成19年)、王恩博副主任医師(平成19年)が本学に留学されたこともあります。また、平成24年度には同院の関明主治医師が3か月間本学歯科麻酔学講座で研修をされております。同院は中国全土でも有数の歯科・口腔外科・顎顔面外科の病院であり、入院・手術症例は年間約6000件にのぼります。口腔外科領域だけでも入院病棟が5病区に分かれており、私は2病区顎顔面外科分野の蔡志剛教授のもとで研鑽を積みさせていただきました。といっても手術室では特殊な状況を除いて他の病区も含めてすべての手術を見学することが可能で、1日の手術件数は20件以上、多いときは35件以上なのでたくさんの貴重な症例を経験することができました。特に私が興味のある腫瘍再建分野では、ほぼ毎日遊離皮弁による再建術が行われており、前腕皮弁術、腓骨皮弁術、外側大腿皮弁術など多くの症例を経験することができました。顎顔面再建術は時代とともに変遷してきており、皮膚移植から始まり、局所皮弁・有茎皮弁、遊離皮弁へとより審美的かつ機能的なものとなってきております。さらに同院では、次のステップとして三次元構築立体模型とコンピューターによるシミュレーションからナビゲーションシステムを応用して欠損前と同様の審美性、機能性を追求した手術を行ってまいりました。今後は世界的にもこのようなテーラーメイドな治療にシフトしていくものと思われれます。また、同大学はAO(Arbeitsgemeinschaft für Osteosynthesefragen)財団の研修トレーニングセ

ンターに指定されており、大学院生と一緒にマイクロサージェリーの練習をさせていただくこともできました。こちらの病院では若いうちからこのような訓練とたくさんの症例を経験することで治療技術の向上がはかれていると感じました。さらに今期間中に同院で、全中国の口腔顎顔面外科医を対象としたマイクロサージェリーの講習会が開催され、私と韓国から来た留学生は教授の計らいで会に参加させていただくことができました。同院には世界中から多くの留学生が手術手技の向上や技術の獲得を目指して訪れております。私の留学期間中にも、ロシア、トルコ、ネパール、フィリピン、マレーシアなど様々な国の留学生が在籍しており、彼らとも交流することができました。様々な国の考え方や思想などに触れて、私にとってよい経験となりました。

今回得られた経験をもとに、今後少しでも本学に還元できることがあれば幸いと存じます。また、このような貴重な機会を与えていただきました関係各位の方々に厚く御礼申し上げます。



留学中に籍していた2病区のスタッフとの記念写真(後列中央が薬師寺講師)：北京大学口腔医院



蔡志剛教授(左)とともに：北京大学口腔医院

## 学生会ニュース

### ■第70回秋季関東医科歯科空手道大会成績報告 第70回秋季関東医科歯科空手道大会が開催さ



大会終了後、全員での記念写真：平成25年11月10日（土）、自治医科大学・石橋体育館

れました。日頃の鍛錬の結果、本学の鈴木真太郎君（3年）が見事男子個人形で優勝しました。



見事優勝した鈴木君：平成25年11月10日（土）、自治医科大学・石橋体育館

## 図書館から

### ■本学教員著書リスト

（本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定）

一戸達也 [ほか] 編 Q&A 歯科のくすりがわかる本 2014（歯界展望 別冊）医歯薬出版、2013

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

### ■千葉市図書館情報ネットワーク協議会主催の「加盟館紹介展」に参加

平成25年10月26日（土）から11月5日（火）まで、千葉市図書館情報ネットワーク協議会主催の「加盟館紹介展」の展示が、千葉市生涯学習センター1階のアトリウムガーデンで開催され、「東京歯科大学図書館」も、図書館の紹介ポスターを展示した。

### ■ワークスタディ奨学生、受入開始

本学ワークスタディ奨学制度の開始に伴い、図書館ではワークスタディ奨学生、21名（1年生：3名、2年生：5名、3年生：7名、4年生：4名、5年生：2名）の受け入れを、平成25年11月18日（月）より開始した。4校舎図書館にて、主にカウンター業務を中心に、書架整理や什器清掃などを行っている。

### ■阿部潤也閲覧係長 平成25年度 JAIRO Cloud 説明・講習会で講演

平成25年11月7日（木）から11月8日（金）、東北文化学園大学（仙台市）にて開催された、平成25年度 JAIRO Cloud 説明・講習会にて、阿部潤也閲覧係長が講師として招かれ、「機関リポジトリの学内整備について」と「コンテンツの収集について（学術雑誌論文、学位論文など）」のテーマで講演をした。

## <大学史料室から>

### ■稀覯本の寄贈を受ける

平成25年10月26日(土)、静岡県浜松市在住の森 隆先生(昭和39年卒)から、J.Hunter著「The Natural History of the Human Teeth」(「人の歯の博物学」1771年出版)が寄贈され、十二期会のクラス会席上で金子 譲理事長に手渡された。

本書は、歯の構造・機能・形成・発育および疾患を科学的に分析した口腔解剖学書で、19世紀初期までヨーロッパ大陸での歯科医学の進歩に最も大きな影響を与えた。

森先生は1988年頃に翻訳を目的にこの原書を購入したが、翻訳途中で都立駒込病院の高山直秀先生が翻訳・出版したため翻訳を断念された。



「The Natural History of the Human Teeth」  
J.Hunter著, 1771年出版

なお、1987年にはJ.Woodforde著「The Strange Story of FALSE TEETH」(1968年出版)を翻訳し、「エピソードでつづる義歯の歴史」と題し出版されている。

寄贈いただいた原書は日本に数冊しかない稀覯本で、歯科医学の歴史を検証する上で大変貴重な資料であり、史料室で大切に保存し後世に伝えたい。

本学では同書を一冊所蔵しており、水道橋校舎新館3階のラウンジ・史料室に展示し供覧に付すとともに、大学ホームページで「大学のたから」として紹介している。



贈呈式(金子理事長(左)と森先生(右))：平成25年10月26日(土)、水道橋校舎本館特別会議室

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■歯科衛生士専門学校登院式挙行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第64期生の登院式が、平成25年10月1日(火)午前11時より、千葉校舎第2教室において、柴原孝彦千葉病院歯



緊張した面持ちで訓辞を聞く登院生：平成25年10月1日(火)、千葉校舎第2教室

科衛生士部長、尾谷始子千葉病院歯科衛生士長の臨席のもと、第1学年と第3学年の学生全員が列席する中で挙行された。

久永竜一学生部長の司会のもと、松坂賢一副校



登院生代表 松崎さんの誓詞：平成25年10月1日(火)、千葉校舎第2教室

長の呼名により、64期の登院生が一人ずつ紹介された。はじめに井上 孝教授より、学校長の立場から病院実習における修学姿勢、また千葉病院長の立場から医療人としての自覚について訓辞があった。その後、来賓として臨席された柴原千葉病院歯科衛生士部長から臨床実習に臨む心構えについて訓辞があった。最後に、登院生45名を代表して松嵩由佳乃さんが誓詞を述べ、登院生全員がこれに唱和して式を終了した。



登院式が終わっての記念写真：平成25年10月1日（火）

### ■歯科衛生士専門学校平成26年度第Ⅰ期推薦入学選考実施

東京歯科大学歯科衛生士専門学校の平成26年度第Ⅰ期推薦入学選考が、平成25年10月17日（木）に千葉校舎において実施された。これは募集人員45名中の一定数を推薦入学により入学させるものであり、本年は高等学校長の推薦により県内から53名、他県から4名の計57名と平成21年度から始めた社会人特別選抜に3名の応募があり、合計60名が受験した。選考内容は、高等学校長の推薦は書類審査と基礎学力検査および面接であり、社会人特別選抜は、自己推薦書および書類による審査と、小論文および面接であった。入学選考は、午前9時30分から始まり、午後3時にはすべてが終了した。

合格者は、10月18日（金）に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等学校長および受験生本人に通知された。

昨今の厳しい経済状況とそれともなう就職難という社会状況の中、国家試験合格率100%、就職率100%を誇る本校の実績の継続は非常に大切である。今後もその実績を基盤として、積極的な学校訪問や学校説明会の開催、平成21年度より開始した指定校推薦などの取組を引き続き行って

いく予定である。

### ■歯科衛生士専門学校第63期生修学旅行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第3学年（第63期生）は、11月15日（金）・16日（土）の1泊2日の日程で伊豆・修善寺方面へ修学旅行に出かけた。

模擬試験、卒業論文の提出を終え、一時の休息を求めて、11月15日（金）早朝、学校集合し、井上 孝校長先生はじめとする教員の先生方に見送られ修学旅行がスタートした。まずは、歯科衛生士国家試験合格祈願のため、湯島天神に向かいご祈禱後、第63期生全員合格を願い絵馬を結んだ。その後、バスは東名高速を走り、箱根彫刻の森美術館へと向かった。車中は、レクリエーションを行い、楽しい移動時間となった。箱根彫刻の森美術館では、野外彫刻や300余点のピカソ・コレクションを見学し、芸術に触れ合いながら、大自然の中で散策気分を楽しんだ。その後、夕方には宿泊場所の修善寺温泉桂川に到着した。

夜はお楽しみの大宴会が行われた。宴会では、練習を積み重ねたダンスやカラオケが次々と披露され、あっという間の2時間であった。宴会での盛り上がりを通して、第63期生が一致団結していることを確信した。

2日目はしいたけの里で椎茸狩りを体験した。椎茸狩りを体験するのが初めての者も多く、学生は夢中になって椎茸狩りを楽しんでいた。そして、その後のバーベキュー大会でおなかをいっぱいにして、修善寺を後にした。

笑顔溢れる貴重な時間を過ごし、気持ちを新たに歯科衛生士国家試験に挑むため、更に一致団結するきっかけとなった。今後も皆で協力し、春まで頑張ることを決意した。



旅館前でのさわやかな朝：平成25年11月16日（土）、修善寺温泉 桂川

## ■歯科衛生士専門学校第63期生卒業研究発表報告会開催

東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、3年制教育への移行に際して、卒業研究論文の作成を独自のカリキュラムとしてとりいれた。この卒業研究を通して、学生たちには問題発見、問題解決能力を高めることを期待している。普段の生活や、講義、実習で、疑問を持っていることなかから研究テーマとなるものを探しだし、この問題について詳細に調べ問題点を解決していく過程を学ぶ。東京歯科大学の各講座研究室および歯科衛生士専門学校の卒業研究論文担当の諸先生のご指導により、2年以上の時間をかけて行う。具体的には、資料を調べ、論文を読み、試行錯誤しながら、研究の立案や研究方法を選択し、そして実際の実験やフィールド調査などを行ってひとつの論文にまとめ上げるのである。

第8回目卒業研究の今回は、第63期生全員の研究が300ページ余りにもおよぶ厚い卒業研究論文集としてまとめられ、11月21日（木）に東京歯科大学千葉校舎の講堂で、歯科衛生士専門学校の3学年の全員と、論文指導の諸先生やその他の参加者を集め、卒業研究発表報告会が開催された。

発表報告会は学会形式をとり、受付から、座長、タイムキーパーなどの役割を全て3年生が受け持ち、運営された。午前9時、井上 孝校長の開催挨拶に続き、6分間のPowerPointを用いたプレゼンテーションと2分間の質疑応答が始まった。

自分の研究を自信を持って発表する様や、フロアからの質問に緊張しながら答える姿は印象的で、3年間の学生生活の総まとめとして大変ふさわしいものであった。

研究テーマは基礎から臨床の広い範囲にわたっており、ブラッシングやフッ化物など口腔ケアに関する研究や、細菌学的研究、さまざまな角度からのフィールド調査、歯科材料、審美、味覚、口臭、歯の微細構造、高齢者などに関する研究など非常に多彩で、興味深いものが多かった。これは東京歯科大学と歯科衛生士専門学校の担当教員による、長時間に亘る親身な指導の賜物であり、学生たちにとっては大変貴重な経験となったと思われる。

長時間にわたる研究発表報告会は、総評の後、全員で記念撮影を行い終了となった。その後、衛生士学校のラウンジでささやかな懇親会が開かれ、なごやかで楽しい時間を過ごし閉会した。



卒業研究発表報告会の風景：平成25年11月21日（木）、千葉校舎講堂

## 平成 25 年度科学研究費補助金決定

平成25年度科学研究費補助金は、独立行政法人日本学術振興会から、平成25年6月20日付で新規・継続採択分の配分額の決定が通知された。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表のとおりである。

### 平成25年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成25年11月1日現在

研究種目	件数	交付決定額（単位：円）		
		直接経費（研究費）	間接経費	合計
基盤研究（B）	2	6,000,000	1,800,000	7,800,000
基盤研究（C）	34	45,221,290	13,566,387	58,787,677
挑戦的萌芽研究	2	1,800,000	540,000	2,340,000
若手研究（B）	21	26,500,000	7,950,000	34,450,000
合計	59	79,521,290	23,856,387	103,377,677

## 科学研究費補助金 平成25年度新規採択課題の要旨

基盤研究(C)河野 通良 助教

### 「非病原性天疱瘡抗体を用いた表皮特異的ドラッグデリバリーシステムの開発」

非病原性天疱瘡抗体にTRAIL (TNF-related apoptosis-inducing ligand) を結合させた融合タンパクを作製し、そのin vitro, in vivoでの機能解析を行った。作製した融合タンパクは、活性化CD4陽性T細胞のサイトカイン産生を抑制した。また、過剰増殖する表皮細胞にアポトーシスを誘導したが、分化した細胞は障害されなかった。近年、TRAILが増殖する表皮細胞の分化を誘導するという報告がなされていることから、表皮の過剰増殖と炎症細胞浸潤を特徴とする乾癬や扁平苔癬などの炎症性角化症に対して有効な治療薬となり得ると期待される。

基盤研究(C)村松 敬 教授

### 「ヒト歯髄細胞を用いた自己免疫性唾液腺炎の発症機構の解析と治療法の検討」

唾液分泌障害は口腔粘膜疾患や多発性の齶蝕や歯周炎だけでなく口臭、さらには嚥下障害や誤嚥性肺炎、萎縮性胃炎を引き起こすことが知られ、全身状態やQOLに大きく影響することが報告されている。このため本症の発症機構の解明や治療法の開発は急務である。本研究では著しい唾液分泌障害機構解明のプロトタイプとして、自己免疫性唾液腺炎であるシェーグレン症候群患者から得られた歯髄細胞と健常者から得られた歯髄細胞を唾液腺細胞に分化転換 (transdifferentiation) させ、その分化過程において詳細に比較・検討することで、本疾患の成立機序の解明と治療法の確立を目指すことを目的とする。

基盤研究(C)東 俊文 教授

### 「間葉系幹細胞、iPS細胞を用いた骨組織再生法開発のための基礎的研究」

マウスと異なりヒトiPS細胞においては、RA添加群では細胞増殖が顕著に増加したがALP染色は弱陽性であった。一方、非添加群ではコロニー状にALP強陽性細胞が認められた。サイトカインの投与によりALP陽性細胞の比率は変化した。

最も高率にALP陽性細胞を認めたのは、TGF- $\beta$ 、IGF-1、FGF-2をOBM培地に添加して培養した場合で80%が2週間で陽性化した、そして、この細胞集団はMSC様の細胞形態を呈していた。この結果より、比較的短期間で骨芽細胞への分化を誘導でき、さらにこのALP陽性細胞をPE-conjugated anti-human ALP抗体 (R&D社) を用いてFACS分離可能であることが示唆された。実際に、ヒト歯根膜細胞での予備実験において、ヒト歯根膜細胞はOBMで培養するとALP陽性骨芽細胞前駆細胞が多数出現するが (Ochiai H et al. J Hard Tissue Biol. 2010;19:187-194, Ochiai H et al. J Biol Chem. 2012;287:22654-22661)、この分化させたHPDL細胞を抗ALP抗体にて蛍光免疫染色後FACS解析すると、アイソタイプコントロールと比較して顕著にALP陽性細胞が増加し、陰性細胞と明確に区別することができた。さらに分化誘導培地あるいは活性型ビタミンD処理により、骨芽細胞分化マーカー発現、石灰化、から骨芽細胞分化後期へ分化し、一部は骨細胞様形態をとり、骨細胞タンパク質であるスクレロステチン、リーリンRANKLの発現が高い細胞集団が出現した。

基盤研究(C)西川 慶一 講師

### 「歯科用コーンビームCT装置を維持管理するための品質保証計画実施用ファントムの開発」

現在、歯科用コーンビームCTの普及が急速に進んでいる。エックス線検査の際に患者に不要な被曝を与えず、正確な画像取得を維持するためには、定期的に装置の性能評価(不変性試験)を行う必要がある。しかしながら、歯科用コーンビームCT装置の不変性試験のための性能評価項目、性能評価用ファントムの仕様、その使用法のいずれについても現状ではまったく策定されていない。これは、歯科用コーンビームCTと医用CTでは画像特性が大きく異なるためである。そこで、本研究では性能評価用ファントムを開発するとともに、そのファントムを使用した具体的な品質保証計画を立案する。

基盤研究(C) 亀山 敦史 准教授

### 「マイクロデンティストリー時代のニーズにマッチした接着性修復材料の開発」

近年の歯科臨床は、分野を問わず、より精密な作業を求められるようになってきた。また、治療のみならず診断の場面においても、患者の訴える症状の「なぜ？」に答える必要があり、裸眼のレベルを超越した視覚的診断のニーズも高まっている。つまり、高度な「臨床の手」と「臨床の目」の両方を持ち合わせていないと、現代の患者ニーズにマッチした高度な歯科医療は提供できない。このような背景からマイクロSCOPEや歯科用ルーペを併用する歯科医師が増えてきた。さらに、近年ではルーペにライトを併用する歯科医師も多い。しかし、一般にコンポジットレジンに光増感剤はルーペ用光源に反応するため、コンポジットレジン修復でルーペ用光源を併用すると操作時間が短縮されてしまう危険性がある。

本研究では、ルーペ用光源がコンポジットレジンの硬化に与える影響を調べるとともに、これらの光源に干渉しないコンポジットレジン材料の開発を目的としたものである。

基盤研究(C) 田坂 彰規 講師

### 「咬合がストレス緩和効果に影響を及ぼすか？」

近年、全身機能に及ぼす咀嚼の重要性に関する報告が目立っており、「咀嚼によるストレス緩和」について様々な研究がされてきた。当講座ではストレス評価の指標としてストレスホルモンの1つである唾液中コルチゾールを用いて、チューイングによるストレス緩和効果を明らかにした。さらにチューイング時の速度、力、時間の運動条件がストレス緩和効果に及ぼす影響についても検討してきた。今回は咀嚼する能力に着目し、咬合がチューイングによるストレス緩和効果に及ぼす影響を明確にすることを目的としている。本研究が咬合学の発展の一助となり、歯科医学の観点からストレスマネジメントを行うことでストレス関連疾患の予防につなげることができると考える。

基盤研究(C) 山下 秀一郎 教授

### 「摂食・嚥下運動における Stage II transport の発現を制御する因子の検討」

近年、摂食・嚥下運動の動態を表現するのにブ

ロセスモデルが提唱されるようになってきた。このモデルでは、咀嚼の進行中であっても食物の一部は、Stage II transport により中咽頭へと運ばれ集積される現象が特徴的に述べられている。嚥下障害者においては誤嚥のリスクを最小限にとどめることが肝要であり、Stage II transport の発現に関する基礎的データの蓄積が待たれるところである。経鼻内視鏡システムの開発により、食塊の動態を安全にかつリアルタイムで観察できるようになったことを踏まえ、本研究では、経鼻内視鏡システムを用いて中咽頭へ移送された食塊の動態を直接観察することにより、咀嚼の進行過程の中で Stage II transport の発現を制御する因子に関して検討を行うことを目的とする。

基盤研究(C) 中島 一憲 講師

### 「ガム咀嚼が情動反応に及ぼす影響」

複雑な情報化社会の進展により増加するストレスは、多くの社会問題を引き起こし、その原因の解明とストレスへの対応は、心身の健康を維持する上で重要である。下顎の偏位や咬合干渉がストレスとして働くことが報告されている。一方で、ストレスの除去、軽減に対して噛みしめや、咀嚼が重要な役割を果たすことはこれまで多くの研究により解明されつつある。その中でも、ガム咀嚼はその有用性および簡便性から多くの支持を受けている。しかし、その神経生理学的なメカニズムに関しては、不明な点が多い。そこで今回、ガム咀嚼のストレス軽減に対する効果を、ストレスの認知、制御に中心的な役割を示す前頭前野の脳活動を含め多方面より検討することを目的に本研究を行い、ストレスの軽減に寄与したい。

基盤研究(C) 武田 友孝 准教授

### 「水平的下顎位の変化が情動反応に及ぼす影響」

複雑な情報化社会はストレスを増加し心身に様々な問題を引き起こす。ストレスの除去、軽減に対して噛みしめやガム咀嚼が重要な役割を果たすことは多くの研究により解明されつつある。一方、咬合の崩壊や下顎位の不正がストレスとなること、また実験的な下顎偏位がストレスとして作用することも確認されつつある。しかし、その神経生理学的なメカニズムに関しては不明な点が多

い。そこで今回、国際感情画像・音響刺激(IAPS, IADS)より選択した快・中立・不快刺激提示に対する下顎偏位の方向、移動量、持続時間の影響を、ストレスの認知、制御に中心的な役割を果たす前頭前野脳活動への影響を含め、多方面より検討することを目的に本研究を行い、正しい咬合状態の必要性を確認するとともに広く啓発したい。

基盤研究(C)松永 智 講師

### 「アパタイト結晶配向性を指標とした顎骨骨梁のナノメカニクス」

歯を有する顎骨の特殊な構造・機能を把握し、恒常性維持に最適な力学的環境を構築するためには、顎骨が受けるメカニカルストレスの可視化および定量評価が不可欠である。しかし、従来の骨密度(骨量)による骨診査では、直接的に骨力学機能を説明できる部分は極めて少ない。

そこで本申請課題では、結晶学的アプローチによる顎骨海綿骨梁の咬合影響領域特定と荷重支持機能の定量的評価、および異なる荷重条件モデルのアパタイト配向性と力学機能に基づく顎骨の最適化手法の確立の2点を目的とする。骨量から骨質へと視点を変えた試みは、顎骨診断による「予見性」を生体力学的見地から大きく引き上げる可能性を持つ。口腔外科手術前診断や歯科インプラント埋入シミュレーション、再生骨の骨質評価など、骨評価が不可欠な様々な局面において有効な指標となり、力学的条件の最適値を見出すことが可能となると考えている。

基盤研究(C)恩田 健志 助教

### 「口腔癌特異的分子標的治療薬の開発」

近年、すでに臨床試験を経て、標準治療として臨床応用され高い治療効果が報告されている各種がんの分子標的治療薬が出現してきた。しかしながら口腔がんに対する分子標的治療は確立されておらず、有効な標的分子も確定されていない。われわれは、ゲノミクス、トランスクリプトーム、プロテオミクス解析技術を駆使して口腔がんの標的分子候補を多数同定し報告してきた。現在、口腔がん細胞が高頻度に発現異常を示す167種類の標的分子候補のリストアップが完了している。本研究ではリストアップした口腔がんの発現異常分子について腫瘍マーカーとしての有用性、妥当性

を検証するとともに、動物モデルを用いた臨床前試験を行い、薬剤の安全性と有効性のデータを収集し、口腔がんの新規分子標的治療薬として臨床試験への発展を試みる。

基盤研究(C)一戸 達也 教授

### 「組織血流量の制御に基づく口腔外科手術のための新しい全身麻酔ストラテジー」

本研究は、全身麻酔に使用する各種の薬物が口腔組織血流量に及ぼす影響を様々な換気や循環の条件下で観察し、組織血流量の制御に基づいて出血量節減や創傷治癒の促進などに貢献できる口腔・顎・顔面外科手術のための新しい全身麻酔ストラテジーを立案することを目的とする。これまでの研究成果によると、レミフェンタニルやデクスメトミジンは投与速度依存性の下顎骨骨髄や骨格筋の組織血流量を減少させ、過換気は下顎骨骨髄の組織血流量を減少させる一方で、骨格筋の組織血流量を増加させる。これらの薬物や換気条件を適切に組合せることによって、低血圧麻酔のようなリスクを伴わずに安全に口腔外科手術時の出血量を減少させ、あるいは血管吻合を伴う組織再建術の成功率を高めることができるようになることを期待される。

基盤研究(C)高木 多加志 准教授

### 「顎変形症患者の手術前後の三次元形態分析と予測精度に関する研究」

X線CTを用いた三次元的な顎骨移動シミュレーションは、外科的治療(顎変形症)において有用な手段であり、多くのソフトウェアが開発されてきた。しかし、三次元セファロ分析による骨格診断や治療計画、さらに顎骨移動後の顔面軟組織の形態変化を予測し、その手術精度に関する検討が行われていないために、顎矯正手術の三次元的な治療予測システムは、医学的妥当性(EBM)についての検証がなされていないのが現状である。本研究は、顎矯正手術シミュレーションソフトウェアSimPlantO&Oを用いることで、今まで評価の出来なかった(評価の手法がなかった)術前治療計画と実手術の三次元的な精度を検討することで、若手口腔外科医の教育や手術精度の向上が見込まれるため、顎変形症における咀嚼機能の回復や顔面形態の改善の精度を向上することにつながる

るものと考えられる。

基盤研究(C)齋藤 淳 教授

### 「喫煙が歯周病原菌の宿主細胞侵入に及ぼす影響の分子メカニズム解明」

本研究は、歯周炎および動脈硬化症の発症・進展における喫煙の影響の一端を、歯周病原細菌と宿主細胞との相互作用に焦点をあてて明らかにすることを目標に行う。まずタバコ煙が宿主細胞の機能に及ぼす影響を解析し、これを歯周病原細菌がどのように修飾するかについて、細胞侵入能等を含めて検討する。さらにタバコ煙および歯周病原細菌に対する宿主細胞の反応について分子生物学的に解析を行い、標的遺伝子を明らかにすることを試みる。歯周炎や動脈硬化症のリスクファクターに関する知見は臨床的に重要であり、喫煙という環境因子および歯周病原細菌の感染という因子が宿主に及ぼす影響について詳細な知見が得られることを期待している。

基盤研究(C)杉山 哲也 講師

### 「要介護高齢者向け包括的摂食・嚥下機能評価法の開発」

超高齢者社会となった現在、多くの人々が摂食・嚥下障害を有しています。摂食・嚥下機能の評価法には、反復唾液嚥下テスト、改定水飲みテストなど様々なものがありますが、それらは包括的に患者の状態を把握しているとはいえません。そこで、海外で急性期脳卒中患者を対象とした包括的なスクリーニング検査として用いられているThe Mann Assessment of Swallowing Ability (以下MASA)を元に、脳血管障害患者のみならず、地域生活期の要介護高齢者に対する摂食・嚥下機能に関する包括的で簡便な評価法を開発することを目的として本研究を企画しました。この評価法が開発され、要介護高齢者の摂食・嚥下機能評価に広く応用されれば、日本の要介護高齢者医療に対して多大な貢献をすることが期待されます。

基盤研究(C)比嘉 一成 助教

### 「角膜輪部ニッチ様細胞と接する角膜輪部上皮タインニーセルの解析」

角膜上皮幹細胞は角膜周囲の輪部に存在し、恒常的に上皮細胞を供給していると考えられてい

る。この幹細胞の研究は幹細胞を維持する環境(ニッチェ)についても含め、数多く報告されるようになったが、はっきりとした幹細胞の同定には至っていない。そこで、我々は角膜上皮幹細胞とニッチェのモデルとして角膜輪部組織から分離した輪部上皮基底細胞周囲の細胞塊(Tiny cells)を用いて組織学的ならびに細胞生物学的解析を行う。さらに、角膜上皮幹細胞とニッチェのメカニズムを解明するため、これまでに蓄積してきた培養技術を駆使し、Tiny cellsの維持培養法を確立し、幹細胞-ニッチェ複合体の維持培養から既に臨床応用している上皮シートの向上を目指す。

若手研究(B)木下 英明 助教

### 「失敗事例の擬似体験を可能にする口腔インプラント手術シミュレーターの開発」

現在我々は、東京歯科大学口腔インプラント学講座および慶應義塾大学理工学部と共同で海綿骨の骨梁構造を考慮した力覚体感型インプラント手術シミュレーターの開発を行っております。本装置を用いることで、インプラント手術に関する解剖学的な構造に対する知識の習得のみならず、これまで個人の主観に左右されていた、個体差に起因する骨のドリリング時の切削感の違いを術前に体感できるようになります。また、仮想現実上で種々の失敗事例や成功事例の反復練習を可能にし、習熟に時間を要する高度医療の経験の場を増やすことにつながり、エキスパートの育成に貢献できると考えております。

若手研究(B)富田 大輔 助教

### 「涙液中サイトカインに基づいた角膜移植後の新しい治療指針」

近年、眼科領域におけるイメージングデバイスの進歩は著しい。また、一方で涙液中のサイトカインにおいて、ドライアイや重症結膜炎の疾患臨床重症度とサイトカインの上昇とに相関関係があるという報告もあり、疾患と涙液サイトカインのプロファイリングが注目されているが、角膜移植に関しては、涙液サイトカインと術後の経時的な創傷治癒、拒絶反応と言う移植免疫などに関しての報告はない。そこで、眼表面サイトカインや前眼部イメージングを通じて、新しい側面から病態解明を行う事で、拒絶反応や角膜移植眼の生体反

応の病態を解明し、その結果を臨床応用し、病態生理に適した角膜移植術後の治療のスタンダードを確立する。

若手研究(B)篠 宏美 非常勤講師

### 「ヒトiPS細胞の骨分化誘導条件の検討とその単離およびin vivoでの有効性」

骨は生体内で特に大量にTGF- $\beta$ 1とIGF-1を含む。その生理学的意義については明確な説明がなかった。我々は、先行研究より“TGF- $\beta$ 1がIGF-1の骨芽細胞前駆細胞内発現をポジティブ制御し、互いに骨芽細胞の分化を協調的に促進する”という機構を発見し、骨に共存する意義を明確にした。この成果をさらに再生医療への実現に応用することを目的とし、induced Pluripotent Stem Cells (iPS細胞)から骨系細胞へ最も効率的に分化誘導させること、またiPS細胞から適切に未分化細胞を除去し、純粋で安全な骨系細胞を得ること、そして最終的に臨床応用可能な骨組織再生法の確立を目指している。

若手研究(B)津村 麻記 非常勤講師

### 「アルカリ感受性TRPチャネルを介した反応性修復象牙質形成機構の解明」

歯科臨床では第三象牙質、象牙質橋 (dentin bridge) 形成を誘発する目的で水酸化カルシウム製剤や mineral trioxide aggregate (MTA) が使用されているが、なぜこれらが象牙質形成過程を駆動するのは不明である。これらの薬剤は強アルカリ性であるため、本研究は象牙芽細胞におけるアルカリ感受性TRP (transient receptor potential) チャネル発現と象牙質形成との機能連関を検索する。現在、歯科保存治療として歯牙硬組織欠損、あるいは疾患に局限した部位での象牙質形成を目的として使用されている薬剤の新規薬理作用を解明することで歯牙象牙質の急速再生療法における生物学的基盤を有する薬剤の新規開発へとつなげたい。

若手研究(B)神尾 崇 講師

### 「金属アーチファクトの無い医用立体モデル作成法の探求；低コスト高精度モデルの具現化」

本研究はエックス線CTによる顎口腔情報と、三次元形状計測装置による歯列石膏模型による歯

列口腔情報を組み合わせ、3Dプリンタで出力・造型する精密立体モデル作成を行う。その技術手法を探求し、金属アーチファクトの多寡に影響を受けない、高精細医用立体モデル作成手法の構築および確立を目的とする。

顎骨立体モデルを作成するためには、エックス線CTの利用が有効であるものの金属アーチファクトによる情報の欠落が問題となる。そこで東京歯科大学が保有する機器を最大限に活用し、これまでに確立される手法を組み合わせ臨床ニーズに呼応した工学的解決を図り、その確立により高精細歯列・顎骨立体モデルの供給が可能となり、個別的医療の基盤構築とも言える臨床的価値を生み出せる。

若手研究(B)上田 貴之 准教授

### 「可撤性義歯への二酸化チタンコーティング法の生体安全性と臨床評価」

高齢者や有病者では、義歯清掃を行っていても十分ではないことが多い。義歯清掃が簡便にかつ効果的に行えることは、単に口腔内の衛生状態を良好に保つだけではなく、誤嚥性肺炎など全身疾患を予防することに直結する。我々が開発・研究を行っている義歯に対する二酸化チタンコーティングは、義歯の清掃を容易にし、細菌付着の抑制、着色の防止などの効果が基礎的研究で確認されている。そこで、本法の生体安全性の確認と臨床的な有用性を確認し、実用化につなげることを目的に本研究課題を計画した。

高齢者や要介護者の義歯に二酸化チタンコーティングを施すことで、義歯ブラシを用いて丹念なブラッシングをしなくても水洗や超音波洗浄と義歯洗浄剤による洗浄のみで十分な清掃効果を得られることが予想され、誤嚥性肺炎の予防や看護・介護負担軽減につながることが期待される。

若手研究(B)田邊 耕士 PF

### 「スタチン系薬剤の徐放システムによる顎骨再生とそのメカニズムの解明」

歯科領域において骨の再建は長年にわたる重要な課題の1つである。本研究の目的は、近年骨再生能が見出され注目を集めている高脂血症治療薬(スタチン系薬剤)を用いて、新しい骨再生材料を開発することである。既にこれまでの研究によ

り、スタチン系薬剤とゼラチンハイドロゲルを組み合わせることで、自然治癒を上回る速度で骨を再生させられることが確認されている。しかし、抜歯窩やインプラントといった海綿骨部の骨再生が必要とされる治療に応用するには、骨再生能が十分確認できたとはいえない。そこで、臨床応用に向けて、動物の海綿骨部にスタチン系薬剤を用いた骨再生材料を適応し、その効果の確認とメカニズムの解明を目指す。

若手研究(B)橋本 和彦 助教

### 「ジルコニアインプラント周囲炎予防のための新規人工抗菌ペプチドの開発」

本研究の目的は、ジルコニアインプラントの細菌防御能を向上させるためのジルコニア結合ペプチドおよび抗菌ペプチドモチーフからなる人工タンパクを作製し、そのジルコニア結合能および抗菌活性を *in vitro* および *in vivo* で評価し、その有用性を検討することである。

優れた機械的特性と生体適合性を有するジルコニアインプラントが確実なオッセオインテグレーションを獲得し人工歯根として機能するためには、インプラント周囲炎の予防・抑制が必要不可欠である。本研究によってジルコニアインプラント周囲に持続的な抗菌活性を付与することが実現できれば、ジルコニアインプラントの臨床応用に向けた一歩を踏み出せることは確実であり、その社会的貢献度は大きいと考える。

若手研究(B)本間 宏実 助教

### 「歯小嚢特異的発現遺伝子 F-spondin の機能解析による歯周組織再生療法への展望」

歯根形成期歯胚において、歯小嚢細胞は上皮-間葉相互作用により、骨芽細胞、歯根膜細胞およびセメント芽細胞へと分化し、歯周組織を形成していくと考えられている。これまでに、歯根膜形成の起点となる歯小嚢の生物学的分子基盤を明らかにするために、抜去智歯より採取したヒト歯根膜組織を用いて歯根膜発現遺伝子データベースを構築し、機能的クラスタリングと *In Situ Hybridization* 法によるスクリーニングを行った結果、歯小嚢特異的発現遺伝子として F-spondin を見出すことに成功している。本研究においては、歯小嚢特異的に発現する F-spondin の機能的

役割を詳細に解析することにより、歯小嚢から歯周組織が形成される分子メカニズムを明らかにする。

若手研究(B)大神 浩一郎 講師

### 「抗菌ペプチドディフェンシンの口腔粘膜における発現変化の検索」

口腔ケアが十分に行われていないが、口腔粘膜の炎症傾向があまりない症例や歯周ポケットが深いままでも長期にわたり安定している症例が見受けられる。これは自然免疫での防御反応による安定が確保されているためと考えるが、その成否に関する要因は明らかではない。そこで細菌のみならず、真菌やウイルスに広域スペクトラムな抗菌効果を有しているディフェンシンが関与している可能性に着目した。本研究では、口腔粘膜にメカニカルストレスではない炎症傾向が認められる者と健常者の唾液中のディフェンシン量を比較検討し、その差異を明らかにすることで、口腔健康状態の指標の一つとして、広く汎用できるものと考ええる。

## ■平成25年度科学研究費補助金研究者別交付一覧（本学研究代表者分）

平成25年11月1日現在

研究種目		交付決定額 (単位:円)	研究代表者氏名	研究課題名
		直接経費		
基盤研究 (B)		2,100,000	吉成 正雄 教授	スタチン徐放性を制御した新機軸「母床骨改善型インプラント」の開発
基盤研究 (B)		3,900,000	井上 孝 教授	セメント質・歯根膜複合体再生を目指した人工タンパクの開発
基盤研究 (C)		500,000	津坂 憲政 准教授	TCR ζ 鎖 mRNA 3' UTR 異常に伴う全身性エリテマトーデス発症機序
基盤研究 (C)		600,000	杉原 直樹 准教授	根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成
基盤研究 (C)		1,000,000	石上 恵一 教授	ガム咀嚼はストレスを緩和する
基盤研究 (C)		500,000	見明 康雄 准教授	単結晶ナノチューブアパタイトの可能性
基盤研究 (C)		1,100,000	宮内 潤 教授	ダウン症における一過性骨髄増殖症の発症と自然治癒機構の分子・細胞生物学的解析
基盤研究 (C)		1,300,000	島崎 潤 教授	口腔粘膜上皮下細胞から角膜実質細胞への分化誘導
基盤研究 (C)		1,100,000	田中 一郎 教授	ビデオ画像のコンピュータ解析による顔面表情運動障害の診断・治療支援システムの開発
基盤研究 (C)		1,000,000	橋本 貞充 准教授	歯肉付着上皮細胞におけるタイト結合構成タンパク質とバリア機構
基盤研究 (C)		600,000	澁川 義幸 講師	象牙芽細胞における新規 ATP 輸送タンパク質を介する神経-石灰化情報伝達
基盤研究 (C)		800,000	櫻井 敦朗 講師	口腔内細菌叢解析に基づく齲蝕・哺乳齲蝕病因論のリコンストラクション
基盤研究 (C)		1,200,000	石原 和幸 教授	Polymicrobial infection による病原性変化の分子機構の解明
基盤研究 (C)		1,000,000	澤田 隆 准教授	接合上皮内側基板制御因子の探索と特定
基盤研究 (C)		700,000	櫻井 薫 教授	コラーゲン / β 型リン酸三カルシウム複合体の骨伝導性と生体内崩壊性の評価
基盤研究 (C)		1,400,000	矢島 安朝 教授	インプラント周囲上皮の口腔粘膜疾患に対するリスク評価法の確立
基盤研究 (C)		400,000	柴原 孝彦 教授	次世代口腔がん検診システム・アルゴリズムの開発
基盤研究 (C)		2,000,000	山本 信治 講師	口腔癌のマッピングアレイを用いた再発・転移関連遺伝子の解明
基盤研究 (C)		1,600,000	片倉 朗 教授	唾液中の口腔癌関連タンパクをメタボローム解析でプロファイルする
基盤研究 (C)		1,300,000	阿部 伸一 教授	顎顔面再建治療へ向けた上皮-間葉ハイブリッド型細胞シートの創製プロジェクト
基盤研究 (C)	新規採択	1,200,000	河野 通良 助教	非病原性天疱瘡抗体を用いた表皮特異的ドラッグデリバリーシステムの開発
基盤研究 (C)	新規採択	1,700,000	東 俊文 教授	間葉系幹細胞、iPS 細胞を用いた骨組織再生法開発のための基礎的研究
基盤研究 (C)	新規採択	1,400,000	西川 慶一 講師	歯科用コーンビーム CT 装置を維持管理するための品質保証計画実施用ファントムの開発
基盤研究 (C)	新規採択	2,100,000	亀山 敦史 准教授	マイクロデンティストリー時代のニーズにマッチした接着性修復材料の開発
基盤研究 (C)	新規採択	700,000	田坂 彰規 講師	咬合がストレス緩和効果に影響を及ぼすか？
基盤研究 (C)	新規採択	2,800,000	山下秀一郎 教授	摂食・嚥下運動における Stage II transport の発現を制御する因子の検討
基盤研究 (C)	新規採択	1,500,000	中島 一憲 講師	ガム咀嚼が情動反応に及ぼす影響
基盤研究 (C)	新規採択	1,500,000	武田 友孝 准教授	水平的下顎位の変化が情動反応に及ぼす影響
基盤研究 (C)	新規採択	1,200,000	松永 智 講師	アパタイト結晶配向性を指標とした顎骨骨梁のナノメカニクス
基盤研究 (C)	新規採択	1,700,000	恩田 健志 助教	口腔癌特異的分子標的治療薬の開発
基盤研究 (C)	新規採択	2,400,000	一戸 達也 教授	組織血流量の制御に基づく口腔外科手術のための新しい全身麻酔ストラテジー
基盤研究 (C)	新規採択	3,400,000	高木多加志 准教授	顎変形症患者の手術前後の三次元形態分析と予測精度に関する研究
基盤研究 (C)	新規採択	1,000,000	齋藤 淳 教授	喫煙が歯周病原菌の宿主細胞侵入に及ぼす影響の分子メカニズム解明
基盤研究 (C)	新規採択	2,400,000	杉山 哲也 講師	要介護高齢者向け包括的摂食・嚥下機能評価法の開発
基盤研究 (C)	新規採択 転入	900,000	村松 敬 教授	ヒト歯髄細胞を用いた自己免疫性唾液腺炎の発症機構の解析と治療法の検討
基盤研究 (C)	転入	1,221,290	比嘉 一成 助教	角膜輪部ニッチ様細胞と接する角膜輪部上皮タイニーセルの解析

研究種目		交付決定額 (単位:円)	研究代表者氏名	研究課題名
		直接経費		
挑戦的萌芽研究		900,000	吉成 正雄 教授	結晶学的アプローチによる顎骨の力学的特性評価への挑戦
挑戦的萌芽研究		900,000	新谷 誠康 教授	DMP1の分子進化学的研究
若手研究 (B)		1,000,000	國分 克寿 助教	人工バイオ微小環境を利用した癌細胞転移能の動的評価系の開発
若手研究 (B)		500,000	佐々木穂高 講師	骨代謝マーカー検査で顎骨の Bone Quality を評価する
若手研究 (B)		800,000	國分 栄仁 助教	<i>Treponema denticola</i> の細胞侵入に関する病原性の解明
若手研究 (B)		1,600,000	佐藤 正樹 助手	象牙芽細胞における歯肉治療薬の作用と応用: 侵害刺激受容と修復象牙質形成の機能連関
若手研究 (B)		900,000	山田 将博 講師	歯肉線維芽細胞による骨芽細胞および骨膜細胞の機能発現の亢進
若手研究 (B)		1,000,000	添田 亮平 助教	チューイング力がストレス緩和に及ぼす影響
若手研究 (B)	長期海外出張中	0	武本 真治 講師	歯周病原性菌の付着によるチタン合金の初期腐食評価
若手研究 (B)		1,800,000	高山 沙織 助教	歯周病の新規予防物質としてのウナギガレクテンの有効性評価
若手研究 (B)		1,000,000	衣松 高志 講師	プライマリーシリアの特性を応用した新規歯肉組織再生治療の確立
若手研究 (B)		1,400,000	中村 安孝 助教	X染色体多型の利点を応用した法医学的個人識別における弱点の克服
若手研究 (B)		1,500,000	菊池有一郎 助教	口腔内バイオフィーム形成及び歯周病原性発現における ECF シグマ因子の役割
若手研究 (B)	新規採択	2,000,000	木下 英明 助教	失敗事例の擬似体験を可能にする口腔インプラント手術シミュレーターの開発
若手研究 (B)	新規採択	1,100,000	富田 大輔 助教	涙液中サイトカインに基づいた角膜移植後の新しい治療指針
若手研究 (B)	新規採択	1,500,000	篠 宏美 非常勤講師	ヒト iPS 細胞の骨分化誘導条件の検討とその単離および in vivo での有効性
若手研究 (B)	新規採択	2,000,000	津村 麻記 非常勤講師	アルカリ感受性 TRP チャネルを介した反応性修復象牙質形成機構の解明
若手研究 (B)	新規採択	2,000,000	神尾 崇 講師	金属アーチファクトの無い医用立体モデル作成法の探求: 低コスト高精度モデルの具現化
若手研究 (B)	新規採択	1,000,000	上田 貴之 准教授	可撒性義歯への二酸化チタンコーティング法の生体安全性と臨床評価
若手研究 (B)	新規採択	1,000,000	田邊 耕士 PF	スタチン系薬剤の徐放システムによる顎骨再生とそのメカニズムの解明
若手研究 (B)	新規採択	900,000	橋本 和彦 助教	ジルコニアインプラント周囲炎予防のための新規人工抗菌ペプチドの開発
若手研究 (B)	新規採択	2,000,000	本間 宏実 助教	歯小囊特異的発現遺伝子 F-spondin の機能解析による歯肉組織再生療法への展望
若手研究 (B)	新規採択	1,500,000	大神浩一郎 講師	抗菌ペプチドディフェンシンの口腔粘膜における発現変化の検索

## 人物往来

### ■国内見学者来校

#### 水道橋校舎・水道橋病院

○リーベン会(107期卒業生10名)

平成25年11月3日(日)水道橋校舎新館見学

○五十鈴会(昭和25年卒業生17名)

平成25年11月7日(木)水道橋校舎新館見学

○オーラルメディシン・口腔外科学講座同門会

(菅松会)(同門会員12名)

平成25年11月16日(土)水道橋校舎本館、新館見学

○さいたま柔整専門学校(学生118名、教員6名)

平成25年11月19日(火)解剖学実習室、標本室見学

○いづみ会(昭和23年卒業生13名)

平成25年11月21日(木)水道橋校舎新館、水道橋病院見学

○さいたま赤十字専門学校(学生41名、教員2名)

平成25年11月22日(金)解剖実習室、標本室、水道橋病院見学

○一般財団法人 南埼玉郡市医師会 久喜看護専門

学校(学生41名、教員2名)

平成25年11月29日(金)解剖実習室見学

#### 市川総合病院

○市原市 片倉歯科医院(2名)

平成25年10月31日(木)市川総合病院見学

## ■海外出張

- 古池崇志助教、添田亮平助教、辻 将大学院生 (有床義歯補綴学)

European College of Gerodontologyに出席、および発表を行うため、10月1日(火)から7日(月)までオーストリア・グラーツへ出張。

- 亀山敦史准教授(口腔健康臨床科学)、坂本輝雄講師(歯科矯正学)

49th Annual Meeting of ISO/TC 106 Dentistryに出席、および発表のため亀山准教授は10月1日(火)から4日(金)まで、坂本講師は10月2日(水)から5日(土)まで、韓国・仁川広域市へ出張。

- 青山龍馬助教(市病・整形外科)

Eurospine2013(ヨーロッパ脊椎学会)に出席、および発表を行うため、10月1日(火)から7日(月)までイギリス・リヴァプールへ出張。

- 阿部伸一教授(解剖学)

ICOI World Congressにおいて招待講演を行うため、10月4日(金)から7日(月)までトルコ・イスタンブールへ出張。

- ピッセン弘子教授(水病・眼科)

第31回ヨーロッパ白内障屈折矯正手術学会(ESCRS)に出席および座長として発表のため、10月5日(土)から9日(水)までオランダ・アムステルダムへ出張。

- 小坂橋俊哉教授、大野真咲アン臨床専修医(市病・麻酔科)

2013年度アメリカ麻酔学会に出席および発表を行うため、10月11日(金)から16日(水)までアメリカ・サンフランシスコへ出張。

- 宮崎 薫助教(市病・産婦人科)

69th American Society for Reproductive Medicine Annual Meetingにおいて発表、および Society of Reproductive Biologists and Technologists Basic Science Awardの受賞のため10月13日(日)から19日(土)までアメリカ・ボストンへ出張。

- 野村武史准教授、渡部幸央大学院生(口腔外科学講座)、高野正行准教授、高久勇一朗講師、菅原圭亮助教(口腔健康臨床科学)永井佐代子レジデント、伊藤和宏レジデント(水病・口腔外

科)、鈴木大貴大学院生(オーラルメディスン・口腔外科学)

21th ICOMS in Barcelona 2013(国際口腔顎顔面学会)に出席、および発表を行うため、高野准教授、菅原助教は、10月20日(日)から27日(日)まで、野村准教授、鈴木大学院生は、10月20日(日)から26日(土)まで、高久講師、渡部大学院生は10月20日(日)から25日(金)まで、永井レジデント、伊藤レジデントは10月18日(金)から27日(日)まで、スペイン・バルセロナへ出張。

- 阿部伸一教授(解剖学)

台北医学大学口腔医学院において、「インプラント解剖学」の講義を行うため、10月20日(日)から21日(月)まで、台湾・台北へ出張。

- 新谷誠康教授、今井裕樹講師、江木勝彦大学院生(小児歯科学)、荒井 亮臨床専門専修科生(口腔健康臨床科学)

同済大学児童口腔医学研究所との共同研究のため、新谷教授は10月21日(月)から24日(木)まで、今井講師、江木大学院生、荒井臨床専門専修科生は10月21日(月)から25日(金)まで、中国・上海へ出張。

- 一戸達也教授(歯科麻酔学)

文部科学省歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究ADA(American Dental Association)年次総会及びCODA(Commission on Dental Accreditation)公聴会に出席するため、10月29日(火)から11月4日(月)までアメリカ・ニューオーリンズへ出張。

- 立木千恵診療教員、惣ト友裕大学院生(歯科矯正学)

南カリフォルニア大学において、歯科矯正科の研修プログラムへの参加、研修のため11月1日(金)から10日(日)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。

- 大久保真衣講師(摂食・嚥下リハビリテーション地域歯科診療支援科)

Ultrafest VI(The 6th Ultrafest meeting)にて発表のため、およびQueen Margaret Universityにおいて、研究打ち合わせのため、11月6日(水)から13日(水)までイギリス・エジンバラへ出張。

- 西井 康助教(歯科矯正学)

5th World Implant Orthodontic Conferenceに出席、および発表のため、11月12日(火)から16

- 日(土)までタイ・プーケットへ出張。
- 青木 大コーディネーター (角膜センター)  
アメリカアイバンク協会 秋季学会 (リーダーシップ教育)に参加のため11月12日(火)から17日(日)までアメリカ・ニューオーリンズへ出張。
- 須賀賢一郎講師、成田真人助教(口腔外科学)  
ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市における医療援助および技術指導のため、11月17日(日)から23日(土)までベトナム・ホーチミンへ出張。
- 齋藤 淳教授(歯周病学)  
The53rd General Session of the Korean Academy of Periodontologyに参加およびJSP-KAP理事会議に出席のため、11月22日(金)から24日(日)まで韓国・ソウルへ出張。
- 坂本輝雄講師、野嶋邦彦講師(歯科矯正学)  
8th World Cleft Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundationに出席、および発表のため、11月22日(金)から29日(金)までベトナム・ハノイへ出張。
- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)  
The Taiwan 2013 ICOI A-P Section Congressにおいて演者として出席のため、11月22日(金)から25日(月)まで台湾・台北へ出張。本SC議長ならびにWG議長として出席のため、9月29日(日)から10月5日(土)まで韓国・ソウルへ出張。

## 大学日誌

### 平成25年10月

- 1 (火) 1～4年生後期授業開始  
大学院入学試験 (I期) 願書受付開始  
[～11/22]  
歯科衛生士専門学校登院式  
歯科衛生士専門学校1年生後期授業開始  
防火・防災安全自主点検日  
診療録管理委員会 (電子カルテシステム運用管理委員会) (市病)
- 2 (水) 1～4年生HBワクチン接種  
リスクマネージメント部会 (千病)  
ICT会議 (千病)  
糖尿病教室カンファレンス (市病)
- 3 (木) カルテ指導委員会 (千病)  
感染制御委員会 (市病)  
ICT委員会 (市病)
- 4 (金) 第126回歯科医学教育セミナー (特別セミナー)  
歯科衛生士専門学校2年生臨床実習開始
- 5 (土) 第11回試験問題作成に関するワークショップ
- 6 (日) 第12回試験問題作成に関するワークショップ
- 7 (月) 臨床研修管理小部会 (千病)
- 9 (水) 1～3年生 Elective study 報告会  
救急委員会 (市病)  
リスクマネージメント部会 (水病)
- 9 (水) 薬事委員会 (水病)  
医薬品安全管理委員会 (水病)  
医療機器安全管理委員会 (水病)
- 10 (木) 午後のリサイタル (市病)  
手術室運営委員会 (市病)
- 11 (金) ICLS 講習会 (市病)  
感染予防対策チーム委員会 (水病)
- 15 (火) 1～4年生インフルエンザワクチン接種  
臨床教授連絡会  
全体教授会  
人事委員会  
環境清掃日  
危険物・危険薬品廃棄処理日
- 16 (水) 大学院運営委員会  
大学院研究科委員会  
褥瘡対策委員会 (市病)  
CPC (市病)  
医療監視 (病院立ち入り検査) (水病)
- 17 (木) 1～4年生振替授業 (月曜日分)  
歯科衛生士専門学校推薦入学選考 (I期)  
部長会 (市病)  
診療録指導委員会 (水病)  
医療安全管理委員会 (水病)  
感染予防対策委員会 (水病)  
個人情報保護委員会 (水病)  
医療連携プロジェクト委員会 (水病)  
科長会 (水病)

- 18 (金) 歯科衛生士専門学校推薦入学選考委員会  
 19 (土) 第 296 回東歯学会 (総会)  
 患者サロン (市病)  
 20 (日) 第 296 回東歯学会 (総会)  
 21 (月) 臨床教育委員会  
 機器等安全自主点検日  
 千葉病院部・科長会 (千病)  
 個人情報保護委員会 (千病)  
 医療安全管理委員会 (千病)  
 感染予防対策委員会 (ICC) (千病)  
 医局長会 (千病)  
 医療連携委員会 (千病)  
 医療安全研修会 (千病)  
 医療安全管理委員会 (市病)  
 22 (火) 1～4 年生インフルエンザワクチン接種  
 情報システム管理委員会  
 23 (水) 1～4 年生振替授業 (金曜日分)  
 糖尿病教室 (市病)  
 データ管理者会議 (水病)  
 病院連絡協議会 (水病)  
 診療録管理委員会 (水病)  
 24 (木) 第 374 回大学院セミナー  
 教養科目協議会  
 業務連絡会 (千病)  
 高度・先進医療委員会 (千病)  
 26 (土) 第 45 回東歯祭  
 第 45 回東歯祭後夜祭・第 45 回歯学体成  
 績報告会  
 28 (月) 5・6 年生インフルエンザワクチン接種  
 移転を踏まえた臨床実習会議  
 NST カンファレンス (市病)  
 教職員研修会「ADE について」(水病)  
 29 (火) データ管理者会議 (千病)  
 カルテ整備委員会 (千病)  
 診療記録管理委員会 (千病)  
 医療サービスに関する検討会 (千病)  
 30 (水) 研究活動に係わる不正行為の防止に関する  
 研修会  
 1～4 年生振替授業 (月曜日分)  
 第 375 回大学院セミナー  
 倫理委員会・利益相反委員会  
 糖尿病教室カンファレンス (市病)  
 保険診療検討委員会 (市病)  
 31 (木) 6 年生第 3 回総合学力試験

- 31 (木) 管理診療委員会 (市病)

### 平成 25 年 11 月

- 1 (金) 推薦、帰国・留学生選抜、編入学 A、  
 学士等選抜 A 願書受付開始 [～5 日]  
 6 年生第 3 回総合学力試験 [10/31～]  
 防火・防災安全自主点検日  
 5 (火) 推薦、帰国・留学生選抜、編入学 A、  
 学士等選抜 A 願書受付締切  
 総合講義検討委員会  
 総合講義作業部会、  
 臨床研修管理小部会 (千病)  
 公認会計士監査 [～8 日] (市病)  
 6 (水) 5・6 年生インフルエンザワクチン接種  
 リスクマネージメント部会 (千病)  
 ICT 会議 (千病)  
 7 (木) カルテ指導委員会 (千病)  
 感染制御委員会 (市病)  
 ICT 委員会 (市病)  
 8 (金) 衛生委員会  
 感染予防対策チーム委員会 (水病)  
 9 (土) 推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選  
 抜、編入学試験 A、学士等特別選抜 A  
 [於: 東京、大阪、福岡会場]  
 11 (月) 公認会計士中間監査 (大学・水道橋病院・  
 法人事務局) [～15 日]  
 臨床教育委員会  
 千葉病院部・科長会 (千病)  
 個人情報保護委員会 (千病)  
 医療安全管理委員会 (千病)  
 感染予防対策委員会 (ICC) (千病)  
 医局長会 (千病)  
 医療安全管理委員会 (市病)  
 12 (火) 臨床教授連絡会  
 講座主任教授会 (推薦、帰国・留学生選  
 抜、編入学 A、学士等選抜 A 合格判定  
 を含む)  
 人事委員会  
 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会  
 13 (水) 基礎教授連絡会  
 大学院運営委員会  
 大学院研究科委員会  
 褥瘡対策委員会 (市病)  
 救急委員会 (市病)

- |        |  |        |  |
|--------|--|--------|--|
| 13 (水) | リスクマネジメント部会 (水病)<br>薬事委員会 (水病)   | 25 (月) | 理事会<br>教職員研修会<br>医療安全研修会 (千病)  |
| 14 (木) | 業務連絡会 (千病)<br>高度・先進医療委員会 (千病)<br>若手医局員の為のプログラム第2回臨床教授による講演会 (千病)<br>治験審査・倫理審査委員会 (市病)<br>手術室運営委員会 (市病)                             | 26 (火) | 薬事委員会 (千病)<br>データ管理者会議 (千病)<br>カルテ整備委員会 (千病)<br>診療記録管理委員会 (千病)<br>若手医局員の為のプログラム第4回臨床教授による講演会 (千病)<br>NSTカンファレンス (市病) |
| 15 (金) | 教職員インフルエンザワクチン接種日<br>環境清掃日<br>危険物・危険薬品廃棄処理日<br>歯科衛生士専門学校3年生修学旅行 [～16日]<br>医療救護活動合同訓練 [市川市主催] (市病)<br>患者サロン (市病)                    | 27 (水) | 糖尿病教室 (市病)<br>糖尿病教室カンファレンス (市病)<br>保険診療検討委員会 (市病)<br>データ管理者会議 (水病)<br>病院連絡協議会 (水病)<br>診療録管理委員会 (水病)                  |
| 18 (月) | 第127回歯科医学教育セミナー<br>公認会計士中間監査 [～19日] (千病)<br>薬事委員会 (市病)<br>東京都エイズ診療従事者臨床研修 [第1日目] (水病)  | 28 (木) | 倫理委員会・利益相反委員会<br>教養科目協議会<br>千葉県保健所立入検査 (千病)<br>若手医局員の為のプログラム第5回臨床教授による講演会 (千病)<br>管理診療委員会 (市病)                       |
| 19 (火) | 情報システム管理委員会<br>若手医局員の為のプログラム第3回臨床教授による講演会 (千病)<br>地域連携委員会 (市病)<br>東京都エイズ診療従事者臨床研修 [第2日目] (水病)                                      | 29 (金) | 医療連携協議会 (千病)   |
| 20 (水) | 図書委員会<br>教職員インフルエンザワクチン接種日<br>機器等安全自主点検日<br>輸血療法委員会 (市病)<br>CPC (市病)   | 30 (土) | 修学指導関係者・父兄個別面談会<br>ロビーコンサート (千病)   |
| 21 (木) | 学生部 (課) 事務連絡会<br>部長会 (市病)<br>診療録指導委員会 (水病)<br>医療安全管理委員会 (水病)<br>感染予防対策委員会 (水病)<br>個人情報保護委員会 (水病)<br>医療連携プロジェクト委員会 (水病)<br>科長会 (水病) |        |  |
| 22 (金) | 大学院入学試験 (I期) 願書受付締切<br>国際交流部運営委員会  |        |  |
| 24 (日) | 受変電設備法定点検 (年次点検) 全館<br>停電  |        |  |

## 平成26年度東京歯科大学大学院歯学研究科 (博士課程) 学生募集要項

○募集人員 歯学専攻34名

〔社会人特別選抜(若干名)  
口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース  
がん治療支持療法のための歯科医師養成コースを含む〕

○入学願書受付期間

第Ⅰ期 平成25年10月 1日(火)～平成25年11月22日(金)まで

第Ⅱ期 平成26年 1月14日(火)～平成26年 2月21日(金)まで

○試験科目

- ・一般
- ・口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース
- ・がん治療支持療法のための歯科医師養成コース
  - 1) 外国語(英語:辞書(電子辞書)の持込み可)
  - 2) 専攻主科目試験および面接
- ・社会人
  - 1) 外国語(英語:辞書(電子辞書)の持込み可)
  - 2) 口頭試問(面接)(提出書類の審査によって社会人としての業務歴または研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する)
  - 3) 専攻主科目試験および面接

※社会人特別選抜については、原則として基礎系講座・研究室のみを志望できる。

○選考日・選考会場

第Ⅰ期 平成25年12月 7日(土) 東京歯科大学 水道橋校舎

第Ⅱ期 平成26年 3月 1日(土) 東京歯科大学 水道橋校舎

○合格者発表

第Ⅰ期 平成25年12月13日(金)正午 ホームページにて発表

第Ⅱ期 平成26年 3月 7日(金)正午 ホームページにて発表

○学費

入 学 金 300,000円

授 業 料 600,000円

学 生 会 費 2,000円

施設維持費 100,000円(入学当初のみ)ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

※受験資格(一般)

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した(する)者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。

2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

※受験資格(社会人)

開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

## 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

阿部潤也 石塚順子 井上直記 上田貴之 王子田 啓 椎名 裕 中村弘明  
日塔慶吉 旗手重雅 久永竜一 藤倉隆行 前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹  
(平成25年11月現在)



### 編集後記

台風の嵐が朝までに過ぎ去りますように…。

実行委員たちの思いが繋がって水道橋での新しい東歯祭、はじめの一步が踏み出されました。開催が危ぶまれていたのにもかかわらず、諦めないで練習に打ち込んだ参加クラブのメンバーたち。その熱意がまわりの人たちを動かしていきました。

かつて、鮮やかな紅葉の中、広い千葉のキャンパスで賑やかに繰りひろげられた東歯祭。

野外ステージから響く歌声。中庭の芝生の上、Jazzの軽快な音色。子供たちの黄色い歓声。色とりどりのクラブの模擬店。秋の風に醤油とソースの香ばしい匂いが混じりあう。

基礎棟や教養棟の中では、クラブ活動の紹介や講座の展示…。そして、凜とした空気の流れる解剖学の標本室。

すべてを思い出の中にしまい込んで。新しい水道橋の東歯祭がはじまりました。

去年までとは違うけれど。準備は十分ではなかったけれど、それでも確かなのは、水道橋の新校舎で開かれた、初めての東歯祭であったと云うこと。

そして、血脇記念ホール。そこは、彼らのために準備された真っ新しいシアター。その舞台の上で、スポットライトと客席からの喝采を浴びて、それぞれの東歯祭がスタートします。

普段は見せることのない、内に閉じ込めていた自分を解放する瞬間が確かにそこにあり、観客たちに感動を与えたということ。言葉を使わない深いところにある心のコミュニケーション。表現者たちの、いつもと違う面を見たときの意外性が、心を揺さぶります。

水道橋の地で、新しい学生たちの時間が、スタートしました。

一枚の写真の中に切り取られた、学生たちの表情の中に、その時間が刻まれていきます。

(広報・公開講座部長:橋本貞充)



抜けるような秋晴れのなか、葉の落ちた細い枝を  
焦げ茶色のおおきな サ・ヤ・エ・ン・ド・ウで  
いっぱいデコレーションした、坂の上の、自角の樹。



秋の日。神田川。お茶の水溪谷の樹々が映る  
さいかち坂校舎のエントランス。